

【徳川家康の環境デザイン】

H16. 1. 29

岡崎大学懇話会会長
愛知産業大学・愛知産業大学短期大学学長

内 藤 昌

岡崎は世界史的に言うとなら日本の＜近代＞の始めです。日本は近代と近世を区別しますが、それは明治維新時に江戸時代を明治の政府が意識的に差別して＜近世＞という時代区分をしたのです。世界的に言えばルネサンス以降＜近代＞です。そしてその近代の始めの（江戸、東京を主体にももちろん考えてはおりますけれども）江戸の設計を具体的に考えたのはこの＜岡崎＞です。ですから岡崎が日本の近代（近世ではなくて）のはじまりだと考えていいと思います。右渦巻き状に発展する都市、無限に発展する都市を考え出したものです。

ご存知のように日本の歴史は平城京、平安京から都市が中国の方式を真似て発展した事になっておりますけれども、近世、近代になってからこの右渦巻き状の都市計画を考えついたわけです。その例は世界史的にも日本にしかございません。

日本は非常に起伏の激しい自然の変化の豊かな地形ですから、そこに右渦巻き状の都市計画を発想として考え始めて、それが現在の東京になったわけです。江戸時代の初期に東京の都市面積が45平方キロ、当時世界一だと考えたローマが16平方キロくらいです。いかに大都市を近代に（要するに近世ですけれども）つくったかということの、発想の原点がこの岡崎にあったわけで、日本の近代は岡崎から始まったと考えて良いと思います。

事実、近代の日本の技術の原点はほとんどこの岡崎から発生しています。例えば、世界文化遺産として有名な日光東照宮などを設計した人々は岡崎から発生しています。岡崎の文化というのは日本の近代の文化の原点だと考えて頂けたらと思います。

それだけにこの岡崎の将来を考えるには、日本の近代の原点として色々な面でプライドを持って前進して頂きたいと思います。

敢えて言えば、岡崎は上品過ぎます。もっとこうしたプライドを地盤として世界に発信するような行動をして頂けたら、将来の岡崎が具体的に日本の原点として、近代の原点として社会的に評価されるのではないかと思います。宜しくお願い致します。